

笹川平和財団主催シンポジウム
「第三国定住：日本の難民受入れと今後の展望」

報告② 有識者会議における議論について (配布資料)

2014年2月27日(木) 於日本財団ビル
静岡文化芸術大学 文化政策学部
国際文化学科 教授 池上 重弘
<http://wwwt.suac.ac.jp/~ikegami/>

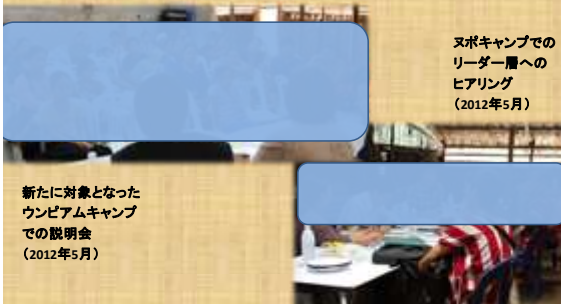
HP [池上重弘研究室](#)

有識者会議

- 2012(H24)年5月に第1回会議。
- 2013(H25)年12月まで全17回の会議。
- 鈴鹿、三郷視察も。
- 構成は大きく4つのグループ
 - 受入れ自治体等
 - 難民支援団体等、
 - 研究者等、
 - オブザーバーとして関係機関等 (IOM, RHQ, UNHCR)

私自身のスタンス：

地方での多文化共生の専門家(東南アジアの文化人類学者)
2012(H24)年5月、UNCHRのサポートを得て大使館員の説明会に同行



ヌボキャンプでの
リーダー層への
ヒアリング
(2012年5月)

新たに対象となった
ウンピラムキャンプ
での説明会
(2012年5月)

2008(H20)年12月の閣議了解、及び 難民対策連絡調整会議決定を受けて

	難民対策連絡調整会議決定等	新たな変更内容	受入れ状況等
2010(H22)			第1陣 5家族27名
2011(H23)			第2陣 4家族18名
2012(H24)	3/9連絡調整会議 5/8有識者会議開始	○期間延長：H22年度から5年間 (=パイロット期間を2年延長) ○対象キャンプ拡大：1→3 ○有識者会議設置：H27年度 以降の方針検討・策定	9月 第3陣 来日なし
2013(H25)	3/8連絡調整会議 4月マレーシア調査	○家族概念拡大：自立可能性のある親・未婚の兄弟姉妹まで ○対象キャンプの拡大：3→5	第4陣 4家族18名
2014(H26)			
2015(H27)		☆マレーシアのミャンマー難民 ☆タイからは家族呼び寄せ中心	

とくに、第3陣ゼロを受けて

- 家族概念の拡大
 - 家族構成の条件を緩和、単身者
 - 人道的配慮vs.自立可能性
- 対象地域の拡大
 - タイ領内の他キャンプ、マレーシアの都市型難民
 - 難民側にニーズ？オペレーションのコスト
- 対象民族の拡大
 - カレン以外にも拡大をというキャンプ側の声
 - 言語面での対応の現実的制約
- 広報、情報提供の改善
 - 難民経由の情報も伝わる現状を踏まえて

今後への課題として

- 対象者について
 - 自立可能生vs.保護ニーズの高い者
 - 単身者の可能性
 - アジア地域の難民への対応に限定？
- 選考過程について
 - 自治体関係者や就業先の関係者が選考？
- 定住地域の選定方法
 - 受入れ自治体へのインセンティブ(財政補助)
- 受入れ社会への啓発
 - 難民受入れのメリット